

KSKP**Threshold**

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ ニュースレター Vol.37

～すれっしょるど～ (出発点)

神戸薬物・アルコール依存リハビリテーションセンター

スレッシュヨルドとは、新たな出発点、飛び立つ場所という意味です

Drug Addiction Rehabilitation Center
DARC

A Deep encounter allows no parting

春はあっという間に過ぎ去り、気がついたら温かい缶コーヒーが、ゴクゴクと飲める炭酸飲料に変わっているように、快適な時間は過ぎ去っていきます。コロナでのあの世界恐慌のような一大事が嘘かのように時は変化していきます。施設に大量に寄付していただいたマスクは、ここで全て消費することができるのだろうかと思えるくらい目まぐるしい変化があります。ですが、ダルクでは、同じように仲間がつながってきて、同じように旅立っていきます。ギリギリ頑張ってる仲間もいれば、悲しいかな、またすぐに拘置所から手紙をくれる仲間もいます。

さて、そんなように新年度を迎え、ありがたいことに、講演の依頼や、協働しての計画を持ってきたりいただける機関、そして、またイベントをしましょうと言ってくれる医療機関やボランティア団体からの声が私たちを励ましてくれます。ここはもう一踏ん張りだなと、遅くまで一人で仕事をしていると、そんな時に仲間から電話が来たりしてホッとしたりします。色々な人との出会いがあって、私の命もつながってきました。15年も経つと。自分の命が助かったことも時には忘れてしまいます。ですが、新しい仲間や刑務所の仲間の手紙や面会での言葉や涙が、私のあの頃を思い出させてくれています。だから、私のレジリエンスは途切れず溢れてくるような気がします。

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 代表理事 梅田靖規

自立訓練(生活訓練)神戸市障害福祉サービス事業所 デイセンター リカバリー

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18 ←郵便物はこちらへ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741 e-mail kobe.darc@gmail.com

西宮ファミリーカウンセリングオフィス

〒663-8177 兵庫県西宮市甲子園七番町 9-18 H2O 甲子園 303 TEL 078-600-9525

共同生活援助(グループホーム) リカバリーホーム TEL078-647-7744 (神戸市須磨区)

リカバリーホーム 2&3 TEL078-764-6988(神戸市垂水区)

SPEAK EASY(タコス & お弁当販売) 神戸市長田区久保町 3-6-9 1F TEL 078-584-3902

指定就労継続支援 B 型(10 月より)事業所 ばっくやーど 神戸市長田区久保町 3-6-9

姫路アディクションサポートセンター 〒670-0832 兵庫県姫路市双葉町 96 Tel 079-255-5033

智頭リトリートヴィレッジ 〒689-1411 鳥取県八頭郡智頭町八河谷杉の木ランド テニスコート下

www.kobedarc.org

神戸ダルク

検索

1.17

アプレンティス ブン

神戸ダルクに入寮して半年が経った頃、神戸三宮の東遊園地で行われた、「阪神・淡路大震災1.17のつどい」に参加させて頂きました。

地震発生時間が朝5時46分。早い時間から準備をして向かいました。

悴んだ手を揉んだり、息をかけたりしながら竹灯籠に水を入れたり、ろうソクに火をつけるお手伝いをしている中、「こんな寒い中、被災に見舞われた方々がどんな思いだったのだろう」「この綺麗な街並みが、当時は瓦礫の山だったのか」色々な思いが頭の中を駆け巡りました。

当時、東京で小学校に通っていた私にとっては、全く想像が出来なかった事です。東日本大震災、ハイチ地震、トルコ・シリア地震、全てテレビ画面の中の出来事で何か他人様の様に捉えている自分がいました。ご遺族の方のスピーチの中で「当たり前が当たり前じゃない」という言葉が記憶に残っています。なぜなら、私が神戸に来た約1年程前にその後一緒に逮捕された売人と同じ様な事を話していたからです。

「当たり前が当たり前が出来なくなる薬」

「普通の事を普通にするのが一番難しい」

他人様の様に捉えていた私ですが、思い返すと薬に溺れていた私の頭の中は大地震でも起きたかのようになっていたのではないかと思います。

人を頼って、一からやり直そうと神戸に来たのに、その友人と薬に溺れ、言った言わないのくだらない事で大喧嘩、他に知り合った薬友達とも時間や金にルーズな事を責め疎遠になり、付き合っていた子とも、、

部屋も人間関係も荒れに荒れた私は、東京に帰ろうと思った矢先に逮捕、普通の人にとって、「逮捕される」という事は、もしかしたら大地震より経験しない事なのではないでしょうか。

小さい頃、父に言われた「友達を大切にしなさい」、母に言われた

「部屋を片付けなさい」「悪い事をしたらダメですよ」

私は、「当たりの事が当たり前」ではなくなっていました。

昨年の4月10日に逮捕され、今神戸ダルクで「当たり前」な生活の練習をしています。ただそれだけに専念してもいいのです。

ご飯を食べる、夜に寝て朝起きる、仲間と笑い日々を過ごす。遊ぶ。

時にはしんどい時もあるけど、しっかり自分自身と向き合う。

今まで、欲しいと思ってなかなか手に入らなかった「当たり前」な生活は、実は凄く簡単な方法で手に入るのではないかと思います。

今日だけ薬を使わない。

私は、「当たり前」を大切に、両親の言葉を胸に生活したいと思います。ありがとうございました。



タコス屋での挑戦と私の回復

厨房スタッフ タク

こんにちは、依存症のタクです。タコス屋がオープンして数ヶ月が経ちました。最初の頃は、身内、ダルク関係者達のお客さんが来てくれました。なかなか軌道に乗れないまま数ヶ月、徐々にスタッフに変化が出てきました。朝一番に時間をかけてつくるソース、レタス、トマトのカットなど開店前にする準備などです。平均して1週間に5人くればいい方です。朝、準備をしても、無駄になるソース。寒いこの時期もあってストーブの回りを囲むスタッフ、なんとも言えない重い空気、スタッフ間でも、会話がなくなりました。

たまに来るお客さんを、めんどくさいと思うようになり、オープンした時の希望も楽しさも無くなっていました。たとえるならば薬をつかっていた頃の気持ちです。このままじゃいけない、なんとかしなければならぬ、と思ってもなんともできない自分、自分が先になってみんなを引っ張っていく勇気もなく、だまって寝ているみんな、それを見てなんとか変えたいと思うけどどうしたらいいのか分からない自分・・・そんな日が数ヶ月続いています。

そんな頃、姫路でワークをする人を募集していました。タコス屋をなんとかしたいと思っていた私は、真っ先に手をあげました。そのワークで何かが見つかる気がしました。そんな気持ちでのワーク、普段使わない頭を使ったせいかめっちゃめっちゃ疲れました。ワークの中で思い切って今の気持ちをワークの課題にしました。色んな答え、気付きがありました。本当は臆病な自分、もう強がらなくてもいいんだ、だれだって怖いんだ、俺だけじゃないんだって思いました。少しだけの勇気、ちょっとだけ前にでるだけで、今の状態を変えられる事に気付きました。まずは挨拶から始めたいと思います。

だるいのはみんな一緒、まずはスタッフ同志のコミュニケーション、タコス屋で働く私達が楽しいと思わないと、おいしいタコスは作れません。おいしいタコスを作ってはじめて自信をもってお客さまにお出しできると思います。それを食べたお客さまが、どう思うか・・・それを考えると今みたいな気持ちでは失礼です。心を入れ替えて、と言うかまずはスタッフが働いて楽しいと思える職場作りがおいしいタコス作りになるんじゃないかと思っています。なんかの本に書いてありました。「人は必ず変わる」と、その言葉を信じてタコス屋を頑張っていきたいと思っています。

畑作業と完全断酒

マサ

アルコール依存症のマサと申します。現在、神戸ダルクに繋がって早五ヶ月を迎えています。毎日が全て戦いです。完全断酒が目標です。今は良き先輩達と共に精進しながらグループ活動をし、その合間を見ながらダルク所有の広大な農地の畑で野菜の命を大切に頑張っています。現在のマサですが、拘束から約六年の歳月が経ち、その間は勿論刑事施設の中ですのでアルコール類その他一切禁止です。テレビのCMでアルコールのCMが流れると飲みたくて仕方ありませんでした。しかし刑期の中間辺りに心の中で断酒を決意致しました。それからと言う物、少しずつ断酒の傾向が強くなり仮出所してからも一切アルコール類を欲しいと思わなくなり、現在でも何一つ変わっておりません。この事は何よりも嬉しく、何よりも今迄幾度に及ぶお酒を断つことを決意したけどその度、長続きはせず失敗に終わっていました。ですがこの度ばかりは断酒出来ることが嘘見たいで、しかしお酒を飲まないことが出来る夢見たいなことが現実化しています。もっと早くにこの断酒が現実していれば、今回の拘束は回避出来たように思っています。

これからもこれを期に生涯継続し二度とアルコール類を口にすることは無きに等しいと考えている所です。更にこのマサは、これ迄農業に携わって来ました。

このことを今ダルクのプログラムの一つである畑作業の一貫としてマサが役に立つことが出来ればと考え、種まき、

苗植え、作付け、収穫迄全てに置いて毎日の水やり、管理をさせてもらっています。この植物達が育ち、畑に作付け出来る時の喜びと共に、今迄難しくて出来なかったマサの断酒が出来たこと並びに、植木畑の植物と共にマサの高齢と命の大切さを植物と末永く生き続けたいと心し、決意も新た



に善良な市民として人様から後ろ指を差されない生き方を心している所です。このマサですが、神戸ダルクに繋がって本当に良かった。そして大事な自分と言う物を取り戻すことが出来ました。本当に嬉しく、引き受けてくれました神戸ダルクさんに感謝しております。有難うございました。

トラウマインフォームドケアの取り組み

スタッフ下菊

神戸ダルクでは以前から代表の梅さんがトラウマについても研究をしている事もあり、「あなたの声を届ける」という当事者が支援者等の前で体験談等を話すときに感じる危険性を理解してもらうガイドブックを作りました。そのような流れの中、講師に大阪大学の野坂先生を招いて、トラウマについて研修会をするはこびになりました。僕自身、トラウマという言葉に対して自分へ当てはめる事にすごい抵抗がありました。それは僕自身が過去と向き合う中で、その言葉で過去の出来事をひとまとめにされてしまうのでは?行動出来ない理由にされるのでは?してしまうのでは?自分に甘えてしまうのでは?等、トラウマという言葉 1 つで自分への言い訳や周りの人に酷くみられる感じがしていました。

研修会は定期的に野坂先生に来ていただいてトラウマとは何なのかという事をメインに会を重ねました。会の中で、自分の感じているトラウマのイメージ等を話しているうちに普段ミーティングで話すような感じになってしまい、研修会の目的からずれてしまうようになりました。その中にはトラウマを抱えた人イコール女性という固定概念もあり男性のトラウマイコール弱いというイメージもありました。

会が進むにあたり他の人の話や先生の話聞き自分の中に感じている違和感こそトラウマに関わる何かでありそれがあってもいいんだという事、その事をこの会の中で話してもいいという事がわかってきました。僕の中にある周りの人達に対して男たるものこんな話を人前で話すなんてありえないと思っていた事が、実は周りに対して聞かれたくない安心できないそんな話をしたらそこに居られないと思っていたんだという事にも気付かされました。僕がダルクに来て回復に向かい自分の中にある自己中心的考えや生きのびる為に薬物が必要だった事に加え、僕の過去の中にトラウマ的要素がしっかり含まれていたんだと知ることができました。もしかしたら依存症の人達の中には同じようにトラウマを抱えた人達が沢山いるのかもしれないとも思うようになりました。

3 月にはセミナーを行い、沢山の人の参加していただきました。

今回、トラウマインフォームドケアについてまず、トラウマとはという事、トラウマを知るという事、トラウマに関わっていくにはまず自分にあるトラウマを知り安心して安全な話せる場所を作りそこで連携がとれるチームワークを作る事が大事になり、チームワークで関わっていく事で支援ができるようになるという事を学びました。

しかし僕自身まだまだ自分の事についてトラウマが元で傷つきやすいことやどういったときにその引き金的な事がおきるのかわかりきっていないので引き続きこのトラウマインフォームドケアについて学ばせてもらいたいと思います。

イベントを盛り上げる企画を毎回工夫中

タカ

繋がって1年4ヶ月になります。これまでダルクでの生活も順調に過ごす事が出来ています。

時には仲間とモメたりする事もありましたが、1年を迎える頃にはスタッフ研修になる事が出来、利用者がデイに来る時の送迎や生活費を渡す役割等、やる事も増えて来ました。

繋がった頃はとりあえず何もしなくていいと言われ戸惑った物ですが、最近では何かと忙しく、自分がやらなアカンと思い、一人でやろうとしている様に思います。やはり何かと助けを求めるのが下手なのですね。そんな中、今回は皆が分担している役割のレクリエーション係を自分がする事になりました。過去の経験も振り返っても、自分が今までやって来なかった分野で、めんどくさがるの自分は人に任せて少し離れた所にいて、決まった事をやるといった、どちらかといえば消極的な感じです。先日もコロナの影響もあり、開催されていないボーリングをしたいとお願いして、開催するという事になりました。ボーリングをするだけやんみたいになっていましたが、後で聞くと予算の問題や、皆が楽しめる内容を考えて企画する事が必要だと言われました。自分にたやすく出来ないからこそ助けを求める事も出来るのだと思います。今の状況を話して一緒に考えてくれへん?と言って、嫌やと言う人は多分いないと思います。今はいつでも人が傍にいる状況なので困った時に人に助けを求める練習をしていけば良いのだと思います。この先も自分には大した力もないので仲間の助けが必要な事が多くなるとは思いますが、1人で考えて難しい時は相談して様々な意見を聞き、取り入れたりしながら仲間と共々に成長していきたいと思っています。

2022 年度神戸ダルク助成事業への感謝 ありがとうございました

ギャンブル等依存症者及びその家族への総合的継続支援事業

これまで4年間連続の支援をいただき、神戸ダルクの支援の取り組みに大きく貢献していただきました。特に家族や刑務所出所者への支援には大きな土台を作ることができました。2022 年度はそれらの継続的及び発展的支援に続き、鳥取ログハウスでの支援者や当事者の壁を超えた交流事業として自然体験をDIYで繋ぐというもの、姫路地区の活動の拠点作りがメインで行われました。兵庫県の西側での包括的な支援の基礎作りになり2023 年度も、持続発展することができそうです。家族の相談者も増えましたが、地域の当事者の相談も増え、学校講演などの依頼も非常に増えて地域に根を張って活動することができそうです。本当にありがとうございます。

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構及び兵庫県遊技業協会様



中堅世代の触法障がい者と市民のつながりを築くモデル事業

2022 年度は、ファイザー様からの助成は2度目になります。ちょうどコロナの時期と同時に1回目の助成をいただき、柔軟な対応をしていただき、本来の事業がうまくいきませんでした。そのおかげで「体験談集」などを作成させていただいたりして、刑務所などのメンバーにメッセージを届けるベースの書籍などを作成することができましたが、2022 年度はそれも踏まえて、「コロナの問題があっても活動ができる」というコンセプトをベースに活動しました。今回は私たち職員だけでなく、仲間のアイデアをもらうための会議を、触法障害者の方々の意見も取り入れて行ったことが大きな特徴でした。野菜の無人販売なども「うまくいくかなあ」と思っていたのですが、地域の人々が朝から並んでくれるほど楽しみにしてもらえたことで、仲間が嬉しい気持ちを報告してくれたり、年の終わりに行う「神戸ダルクフォーラム」では、コロナで中止になっても開催できるように映像作成などにも力を入れました。また、賀川記念館とのタコス販売コラボ事業も大変でしたが大成功で、コロナ前に行っていたイベントを思い出させてくれる取り組みでした。神戸ダルクフォーラムも無事に開催することができ、2023 年も最後の3回目の助成をいただきました。最初に東京のファイザー社に招かれた時のドキドキを今でも覚えています。そして、同じ助成で色々と協働できた「しぶたね」さんとの繋がりもこのコロナ禍で支えてもらったことと感謝しています。

ファイザープログラム 心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援事業様



就労のためのパソコン講習事業

昨年度同様、好評であったパソコン教室を実施しました。エキスパートとビギナーで分かれて、簡単な操作やタイピングから、ウェブでの検索等を行ったり、ワードで書類を作成したり、パワーポイントで自分発表などの取り組みをしました。パソコンと縁がない仲間も、社会復帰後に役立つためのスキルや、パソコンが使えることで就職に自信が持てることなども含めて、基本的なことを楽しく学びました。海外の施設では、このような就職に向けた取り組みに積極的で、そのようなことからスキルアップのための楽しい時間を体験することができました。

社会福祉法人 神戸市社会福祉協議会

令和3年度 障害者福祉基金 清水事業助成様



パソコン購入助成

老朽化してきた職員のパソコンや、ミーティングなどを行うためのオンラインで使用するパソコンが必要となってきたために、便利で高性能な Macmini を 2 台購入させていただきました。パソコンのフリーズなどの問題が消え、快適に作業を勧めることができます。長く大切に使用していきたいと思っています。

愛恵福祉支援財団様





コロナ感染を配慮した依存症者の年越し交流事業

本年の年末年始もNHK歳末たすけあい助成様によって、普通の家庭で味わえるようなお正月を過ごさせていただきました。美味しいおせちやクリスマスの食べ物を食べることができて、寂しくない年末年始を過ごしました。神戸ダルク開設当初から毎年支援していただいているので、皆が温かい正月を迎えることができます。特に刑務所から出てきてすぐの仲間は本当に喜んでくれます

社会福祉法人 兵庫県共同募金会様 令和4年度 NHK 歳末たすけあい助成様

依存症問題を抱える家族の支援事業

昨年に続き、家族会の継続に大きな貢献をしていただいています。年間12回行われる家族会においての講師を招くための費用などのおかげで始まってから69回目の家族会を開催することができています。2023 年度も継続して行うことができるように支援していただき、毎月12～18名の家族の集まる居場所として開催しています。たくさんの方が最初は不安で訪れますが、通ううちに笑顔が見られるようになってきます。会場も新しくできた「中央区文化センター」に変わり、とても綺麗な場所で行っています。今後も継続していきたいです。

大阪コミュニティ財団 2022 年度助成事業様



依存症セミナー開催事業

垂水病院がある地域で地下鉄を利用する依存症者が必ず立ち寄る西神中央に、自助グループの会場がないことをずっと懸念してきましたが、西区社協さんの計らいで、この場所での方々に依存症者の理解を得るために、ダルクでのセミナーとNAの方々を招いてのセミナーを行いました。平日で会場を取るのも難しかったこともありましたが、参加した方々は様々な思いを感じてくれたものと思っています。今後、この地域に自助グループの会場ができればもっと活性化するといい活動を継続していきたいです。

令和4年度 西区赤い羽根地域ささえあい助成事業



依存症オンラインセミナー「医療福祉ダルクの連携」開催事業

関東に比べて、医療と福祉とダルクの綿密な協働作業がなかなか行われていないことから、3年ほど前に計画していたセミナーをようやく開催することができました。多摩総合精神保健福祉センターと八王子ダルクの方々を招き、非常に多くの病院や福祉関係の参加者からも、非常に良いセミナーだったと声をいただきました。実際に全国の地域において、良いきっかけになればと思います。

令和4年度 障害者福祉基金フェスピック事業助成様

子ども時代に虐待を受けた薬物依存症者の回復支援活動の基盤作り事業

コロナ禍で全く活動ができなかった事業でしたが、ひょうごコミュニティ財団様の計らいで、本年度実施することができました。男子依存症施設でトラウマ体験を持つ依存症者をサポートするために「トラウマインフォームドケア」という視点と「私たち支える側もトラウマを抱えた依存症者である」という見解から、1年を通して講師の方を招き、TIC学習会を行いました。年度末には「TIC」「愛着障害」に関するセミナーも開催し、大盛況で、本年度も継続して事業を進めていきます。神戸ダルクの研究活動の骨子になる事業で、非常に手探り状態で進んでいますが、様々な形で実践していければと思います。

第2期有園博子基金様



神戸やまぶき財団様から2つの助成をいただいています

2022 年度前期後期で2つの助成をいただいています。一つが車両購入助成ですが、半導体不足の関係で2023 年の10月に納車となってお迷惑をおかけしています。また、B型作業所の冷蔵庫やかき氷機などの備品購入も支援していただいておりますが、入荷の関係で購入が間に合わずニュースレター掲載ができませんでした。また、次回、時々回のニュースレターで別で報告させていただきます。ありがとうございました。

活動報告

1 月

NCNP ダルク追っかけ調査登壇(あなたの声を届ける)
のぞみの園出所者調査来訪インタビュー
兵庫県こころのケアセンターTIC 研修
播磨社会復帰促進センター教育講演
NARSC 参加

2 月

加古川学園メッセージ&カウンセリング
尼崎市人権啓発推進リーダー研修講演
節分恵方巻き作り&豆まき
賀川記念館沖縄フェア タコス販売
愛着障害研修 ZOOM
更生保護施設職員研修講演
パソコン教室開催(上級者&初級者)
更生保護施設湊川寮見学訪問
スタミナタロー食事会&買い物会開催
泉明石市長感謝の集い参加
松山刑務所薬物離脱教育参加
加古川学園メッセージ&家族教室
TIC 勉強会
栃木ダルクフォーラム参加
APF 参加
近藤さん一周忌参加

3 月

びわこダルクフォーラム参加
播磨社会復帰促進センター教育講演教育講演
尼崎中ロータリークラブ表彰式&講演
トラウマインフォームドケア学習会
神戸ダルク依存症セミナーTIC 開催
神戸入国管理局面談
キューピー工場見学
播磨社会復帰促進センター教育講演
有園博子基金選考会参加
オンライン依存症セミナー医療福祉の連携開催
ログハウス DIY 開始
松山刑務所薬物離脱教育参加

4 月

姫路ダルクリカバリー集中ワーク開催
ぐっさん命日舞子墓地清掃
播磨社会復帰促進センター教育講演
TIC 学習会
リカバリー餃子パーティー
つくしとり

定期開催

姫路家族教室 毎月第2土曜日
神戸ダルク家族会 毎月第4日曜日
姫路無料家族相談 毎月第1火曜日
尼崎無料家族相談 毎月第1水曜日
垂水病院すまーぷ参加 毎週金曜日
保護観察所すまーぷ 毎月第4金曜日
ヨーガプログラム 毎月1回

近況報告・活動予定

仕事量が急に増大して、てんやわんやな日々が流れていきます。昨年度も様々な取り組みを支援して下さった助成団体様によって、前進してきました。これまで、様々な団体からの支援をいただいた中で、私たちも成長してきました。神戸ダルクができる前に、JICA の国際支援のための特別研修を缶詰で行いましたが、そこで一番重要視されたのは Sustainability(持続可能性)でした。その考えをこの数年で重点をおき神戸ダルクを考えることができたのも、アパリで活動した恩恵だと思っています。さて、暖かくなってきた中で、前にも大きく進みたい気持ちですが、コロナの立て直しの一年、原点回帰の年だと私は強く思っています。その中で、見えてきたものが、ギフトになるのではないかなと思います。

神戸ダルク ヴィレッジ広報誌「Threshold」 年間購読のお願い

この広報誌「スレッション」の年間購読のお願いです。障害者低料第三種郵便物の取得が遅れており、皆様をお待たせしてしまいましたが、漸く第三種郵便物の取得ができました。年間購読費は年6回発行で2000円になります。お申し込みはFAX、電話、メール、または同封の振込用紙にてお願いいたします。お申し込みの際は「住所・氏名・電話番号」を必ず明記ください。

※ 配布用に、当ニューズレターを置いていただける場合はご連絡ください。たくさんの方に読んでいただけるように希望数を郵送いたします。私自身もこのような広報資料を見つけたことがきっかけで回復の場所を見つけることができました。ぜひ、まだ苦しむ依存症者の助けとなるようにご協力ください。

支援会員のお願い

神戸ダルク ヴィレッジでは、支援会員として、活動を支えてくれる方を募集しています。

兵庫県の薬物依存症者を助ける活動をご支援ください。
個人会員は1口 3000円(ニューズレター定期購読料を含む)からになります。刑務所内の方々と文通による支援のための切手代などに使わせていただきます。

ご連絡をお待ちしています。

領収書希望の方は一言ご記載ください

神戸ダルク ヴィレッジ

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail: kobe.darc@gmail.com

電話相談 来所による面談 メール相談 相談の内容に関する秘密は厳守します

逮捕・勾留中の方々への支援

刑務所・拘留所・留置所への面会、手紙などによる逮捕者及び保釈中の方への裁判での情状証人出廷や、刑務所出所者への薬物からの回復を希望する方の引受人としての指導対応や、出所前面談など、他機関と連携しながら対応しています。また、資料請求などもご連絡いただければ対応いたします。

★月曜～金曜 10:00～17:00

メールは24時間 OK。 kobe.darc@gmail.com

神戸ダルクへのご献金・献品のご支援本当にありがとうございました。

開設から今日までをたくさんの方々に支えられてきたおかげで、仲間一同、回復のプログラムに取り組むことができています。心より感謝いたします。これからも暖かく見守ってください。

ご献金

伊藤 恵子様 (公財) 正光会 宇和島病院 渡部 三郎様 伊佐 将人様 間 明子様 姫路薬師寮 田中 朋子様
和田 長平様 神戸大学大学院 医学研究科精神医学分野 菱本 明豊様 カトリック仁豊教会様
生田 茂美様 金川 喜美代様 千葉菜の花家族会 富井 建夫様 他匿名希望 1 名

ご献品

廣瀬 万希子様 生田 茂美様 コーガ療法士御一同様 林谷 みどり様 灘山 将之様 他匿名希望 2 名
(令和 5 年 1 月 1 日～令和 5 年 3 月 30 日到着分・順不同 ※購読料・支援会費の方を含む)

寄付や献品のお願い

引き続き、非常に苦しい状況の中、お米などのご支援ありがとうございます。昨年度はお米の寄付をたくさんいただいて、なんとかみんな空腹で苦しむことなく、お腹いっぱいご飯を食べることができました。また、ご家庭で余っている食料品（米、野菜、乾物、味噌、醤油など）から洗濯洗剤やシャンプー、石鹸、などの日用品などがございましたら、神戸ダルクまでご献品ください。たくさんありましたら、車で取りにいくこともできます。洗剤などもたくさんいただいたので非常に助かっています。今非常に助かるのは、食材や日用品です。コロナの影響で外出が少ないため、ストレス発散には、どうしても食事が進んでいきます。心苦しいですが、ご協力をよろしくお願いいたします。また、ボランティア活動も気軽にお声掛けください。私たちは体力だけはありますので、荷物運搬など気軽にお声掛けください。日々の感謝をそのようなことで返したいと思っています。

ご寄付振込先口座 ゆうちょ銀行

口座番号 00950-9-275937

口座名 シヤ) コウベダルクヴィレッジ

店番 〇九九 0275937

献品の送り先住所 653-0041 神戸市長田区久保町 7-7-18

一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ

編集後記

先が見えないコロナ問題も嘘だったかのように社会が変わっていき、さまざまなことに変化が起きてきます。ダルクでも同じです。春になると仲間たちがいなくなったりします。それに合わせて、コロナが終息してきていることで、タガが外れてしまう仲間もたくさんいます。全国的にこのようなことはよくあります。コロナが収まって、仕事量は増えますが、まだまだ社会も回復支援の場も、修復が必要なのでしょう。社会の動きも大きく変わりました。この先の世界は見えませんが、今日一日薬物のない生き方をするのに変わりはありません。

神戸ダルク ニュースレター Threshold (出発点) Vol.37

編集人 一般社団法人 神戸ダルク ヴィレッジ 梅田靖規

印刷 プリントパック

〒653-0041 兵庫県神戸市長田区久保町 7-7-18

TEL 078-224-4244 FAX 078-219-9741

e-mail kobe.darc@gmail.com

www.kobedarc.org

価格 1部 100円 年会費 3000円

(購読料は年会費に入ります)

発行人 関西障害者定期刊行物協会

〒543-0015 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階